

院内事故調査の現状

団員アンケート実施報告

2009.3.1 田井野美穂

1

医療問題弁護団団員向けアンケート

実施期間:平成21年1月19日～2月13日

回答者数:55名(団員数約250名)

目的:院内事故調査が適切に行われていない事例の調査

2

アンケート1

担当事案について、院内事故調査・モデル事業による調査が行われた経験の有無

経験あり 16名(31件) なし 39名

アンケート2

事故調査の申し入れをして拒否された経験について
経験あり 6名(9件)

3

アンケート1

1 事故調査の形態

事故調査委員会を開催しないもの 3件
形態が判然としないもの 4件
外部調査委員の調査によるもの 1件

上記以外は院内事故調査委員会による調査

4

アンケート1

2 事故調査報告書の作成

作成されなかった:3件 不明:1件

3 調査報告書の患者・家族への交付

交付されなかった:4件

4 調査結果について患者・家族への説明

なし:6件

5 報告書ないし患者・家族への説明に対する評価

良い:6件 悪い:12件

5

アンケート1

○ 良い事例

- ・ 院内事故調査委員会による調査を外部評価委員会が検証した上で、院内事故調査委員会が再検討
- ・ 調査の概要について説明会を開催し、遺族から質問・指摘を受けた上で、最終的な結論を出した
- ・ 根本原因分析法を採用
- ・ 事故の日を医療安全の日と定めて毎年研修を実施

6

アンケート1

○ 問題のある事例

【調査委員会の構成】

- ・ 当該医療機関の内部者のみで構成

【調査の実施態様】

- ・ 事例検討会で担当医が報告
- ・ 患者や家族に事情聴取を実施しない
- ・ 患者や家族に調査結果の説明を行わない

7

アンケート1

【調査内容】

- ・ 事実解明・再発防止の視点がない
- ・ 当該医師を擁護する内容に偏っている

【その他】

- ・ 担当者による事実経過の改竄や診療記録の隠蔽

8

事例紹介

1 大森夏織 団員

2 堀康司 弁護士

3 細川大輔 団員

9

アンケート2

事故調査の実施を求めたにもかかわらず、拒否された事案

【拒否理由】

- ・ 内部の事例検討会で検討済みである
- ・ 異常な経過ではない、過誤はない
- ・ 過失あったことを認めているので調査不要

10

まとめ

- ① 院内の報告システムが十分機能していないのではないか
- ② 事故調査の実施方法が根付いていないのではないか
- ③ 内部委員のみによる調査には限界があるのではないか
- ④ 説明責任の意識が希薄ではないか
- ⑤ 事故から学び、再発防止につなげるという意識が希薄ではないか

11